



Mommy

マミー

監督:二村真弘・プロデューサー:石川朋子 植山英美(ARTicle Films)

撮影:高野大樹 佐藤洋祐・オンライン編集:池田聡・整音:富永憲一・音響効果:増子彰

音楽:関島種彦 工藤遙・製作:digTV・配給:東風

2024年・119分・DCP・日本・ドキュメンタリー・©2024digTV

mommy-movie.jp

母は、
無実だと
思う。

和歌山毒物カレー事件から
26年目の挑戦

和歌山 毒物カレー事件

1998年7月、夏祭りで提供されたカレーに猛毒のヒ素が混入。67人がヒ素中毒を発症し、小学生を含む4人が死亡した。犯人と目されたのは近くに住む林眞須美。凄惨な事件にメディア・スクラムは過熱を極めた。自宅に押し寄せるマスコミに眞須美がホースで水を撒く映像はあまりにも鮮烈だった。彼女は容疑を否認したが、2009年に最高裁で死刑が確定。今も獄中から無実を訴え続けている。

事件発生から四半世紀、 最高裁判決に異議を唱える。

本作は「目撃証言」「科学鑑定」の反証を試み、「保険金詐欺事件との関係」を読み解く。「まあ、ちよっと、どんな味すんのかなと思って舐めたわけ」とヒ素を使った保険金詐欺の実態を眞須美の夫・林健治があげすけに語り、確定死刑囚の息子として生きてきた林浩次(仮名)が、なぜ母の無実を信じるようになったのか、その胸のうちを明かす。林眞須美が犯人でないのなら、誰が彼女を殺すのか? 二村真弘監督は、捜査や裁判、報道に関わった者たちを訪ね歩き、なんとか突破口を探ろうとするのだが、焦りと慢心から取材中に一線を越え…。

映画は、この社会の

でたらめさを暴露しながら、
合わせ鏡のようにして、
私たちが自身の業や欲望を映し出す。

この映画はスクープだ。

そして誤解を恐れず言えば、痛切なるエンタメ作品だ。
取材の深さはもちろん、撮影・構成・編集などの表現力も一級品。
同業者として脱帽、と同時に嫉妬した。

大島新
(ドキュメンタリー監督)

mommy-movie.jp

☒ mommy_movie2024

8.3(土)より欲望のロードショー

【全国共通特別鑑賞券】1,500円(税込) 当館受付にて発売中!

特典:映画鑑賞ガイドをプレゼント!(数量限定)

一般 1,800円/会員 1,500円/大専・シニア 1,200円/高校生以下 800円

横浜 R16長者町5丁目交差点沿
シネマリン

045-341-3180

www.cinemarine.co.jp

